

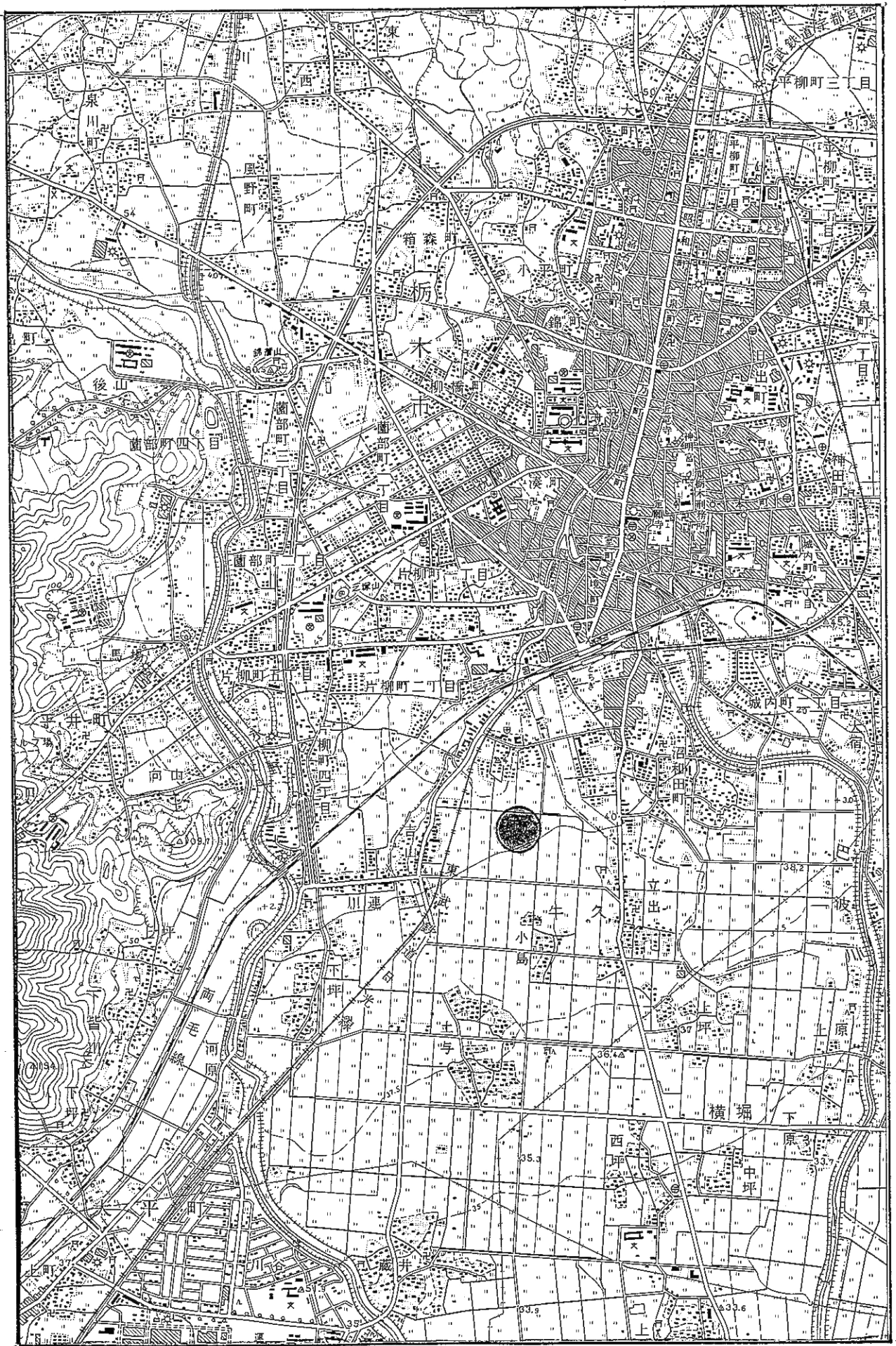
ご 注 意

地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。（建築基準法施行令第93条）

地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご活用ください。

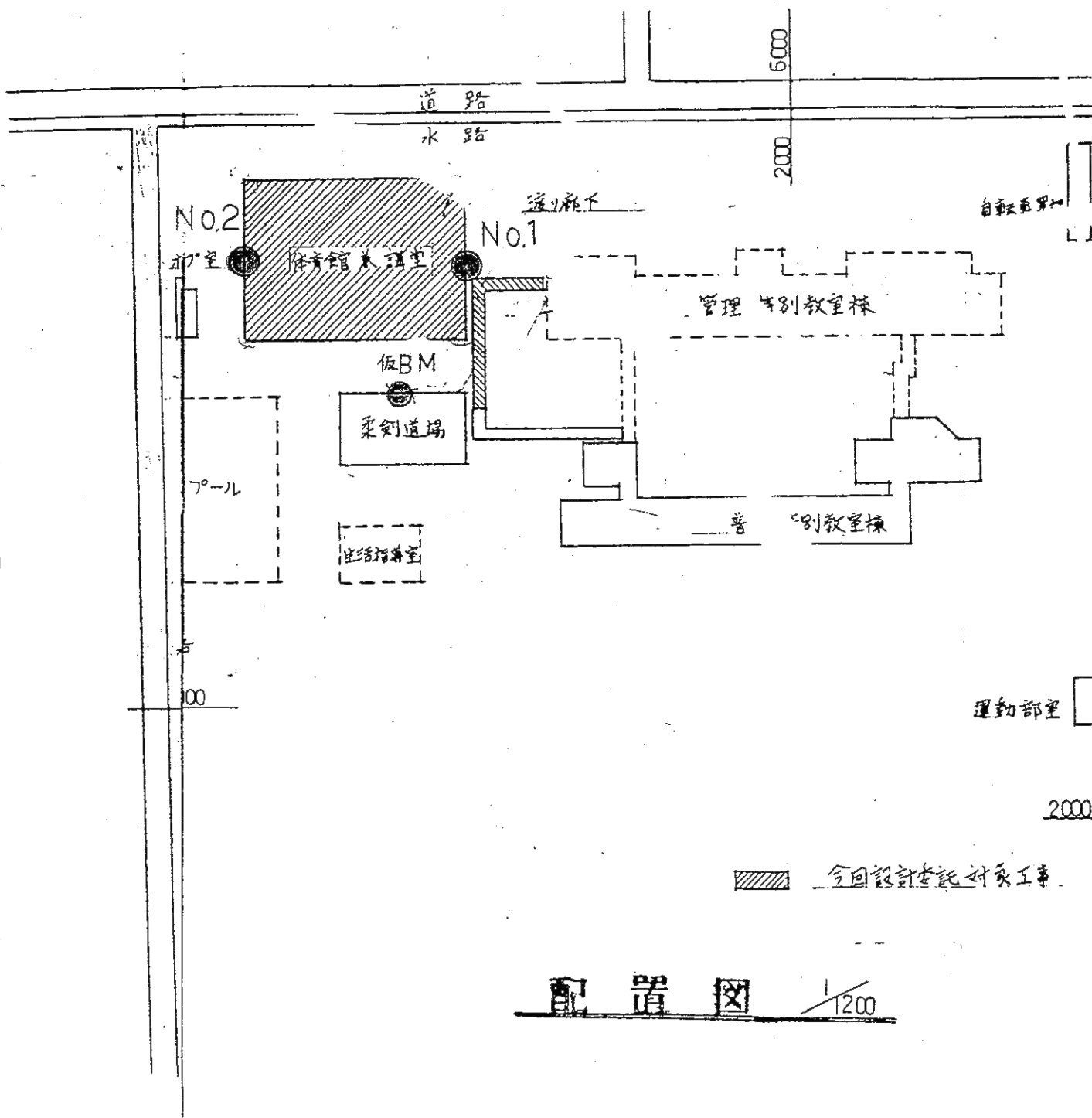
栃木県県土整備部建築課



500 0 500 1000

1 : 25,000

案内図



今回設計委託対象工事

ボーリング番号										備考													
調査名		栃木県高教体育館兼講堂新築工事地質調査																					
調査場所		栃木市片久																					
調査年月日		昭和 57 年 6 月 15 日 ~ 昭和 57 年 6 月 19 日																					
標高		99.82 ^m					基準					仮BM(100.00 ^m)											
ボーリング工法		ローリー式					現場技術者					U 不攪乱試料採取 D 攪乱試料採取											
標尺 (m)	標高 (m)	深 (m)	孔内水位 (m)	層厚 (m)	試料採取位置 (m)	土質記号	土質名	色調	記事	相対密度およびコンシステンシー	標準貫入試験					標尺 (m)							
											貫入深度 (m)	N 値	10cm毎の打撃回数										
											10	20	30	10	20	30	40	50					
0	99.02	0.80		0.80		⊗	盛土	暗灰色	粘土、砂、碎石等の土砂。		1.15								0				
1				1.30		▨	粘土	暗褐色	上部は細砂が多少混入する。全体的には代物混入。	砂の多い	2.15	1	1	2					1				
2	97.72 97.42	2.10 2.40	3.10	2.30		⊙	砂礫	暗灰色	有代物の多い砂。	砂の多い	4.15	15	2	6	6				2				
3						○	砂礫	褐色	φ20~30%の礫が主体。所々φ100~200%の玉石が混入。 2.4~7m付近は、比較的ゆるい状態である。前層より。4m付近は砂が多い。 7~15m付近は、深部で堆積状態である。9m付近の粘土が多くなり、茶褐色を呈す。	非常に硬い	4.45	36	10	14	12					3			
4					○	4.75					29	10	10	9								4	
5					○	5.15					35	12	11	12									5
6					○	6.15					46	13	15	18									6
7					○	7.15					50	16	21	13	3								7
8					○	8.15					50	17	31										8
9					○	9.15					50	22	58										9
10					○	10.15					50	12	16	26									10
11					○	11.15					50	9	9										11
12					○	12.15	50	14	17	19									12				
13					○	13.15	50	29	21										13				
14					○	14.15	50	23	27										14				
15	84.40	15.42			○	15.15	50	17	18	15									15				
16					○	16.15	27												16				
17																			17				
18																			18				
19																			19				
20																			20				

ボーリング番号		No. 2								備考																	
調査名		栃木県高校体育館兼講堂新築工事地盤調査								U.....不攪乱試料採取 D.....攪乱試料採取																	
調査場所		栃木市牛久																									
調査年月日		昭和57年6月19日 ~ 昭和57年6月21日																									
ボーリング工法		99.63m		基準		現場技術者		後B11(100.00m)																			
標尺 (m)	標高 (m)	深 度 (m)	孔内水位 (m)	層 厚 (m)	試料採取位置 (m)	土 質 記 号	土 質 名	色 調	記 事	相対密度 (%)	コンシステンシー (%)	標準貫入試験					標尺 (m)										
												貫入深度 (m)	N 値	10cm毎の打撃回数				10	20	30	40	50					
0				0.75			盛土	暗灰色	碎石廃棄物混入工砂														0				
1	98.93	0.75		0.95			粘土	暗褐色	全体的に有機物混入	ゆるい		1.15	4	1	2	1							1				
2	98.08	1.60		2.20			細砂混	暗灰色	有機物がブロック状に混入し、3m付近より、細砂分が多量に混入す。	非常にゆるい		2.00	0	0	0	(自然)							2				
3			3.75				粘土					3.00	0	0	0	(自然)							3				
4	75.88	3.80					砂礫	茶褐色	φ20~30%の礫が主体、所々φ100%程度の玉石混入。 3.8~6.5m付近、礫分が多量に混入し、粗粒状状態あり。 6.5~15m付近、密実な堆積状態あり。 7m付近より、粘土砂分が多量に混入す。	ゆるい		4.15	14	4	5	5										4	
5															5.15	12	3	4	5							5	
6															6.15	14	5	4	5								6
7															7.15	29	9	10	10								7
8														密実	8.15	22	11	8	13								8
9				11.65											9.15	31	10	10	11								9
10															10.15	31	11	10	10								10
11															11.15	50	28	22	5								11
12														密実	12.15	50	18	22	7								12
13															13.15	50	15	21	14								13
14											14.15	43	21	14	8								14				
15	84.23	15.45								密実	15.15	35	10	12	13								15				